

第二段

修学院離宮	竜安寺
<p>境がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・借景 <p>人は自然の中に入る。</p> <p>庭は庭ではない。</p> <p>人工的</p> <p>自然は、古代的、牧歌的、即自的。 [正]</p> <p>自然的なものと人間的なものは区別されず、</p> <p>自然対人間の対立は意識されない。</p> <p>自然を模倣する。</p> <p>写実的</p> <p>本質をとらえない。</p> <p>後水屋院は、離宮で生活していた。</p> <p>生活者 = 美の享受</p>	<p>額縁の中にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三方は壁、一方を開放 <p>目立たない</p> <p>人は庭を見る。</p> <p>庭は見られるものにすぎない。</p> <p>自然は、近代的、客観的、対目的。 [反]</p> <p>自然的なものと人間的なものが区別され、</p> <p>人間に対する自然として意識される。</p> <p>自然を模倣せず、</p> <p>象徴的</p> <p>自然の本質をとらえている。</p> <p>相阿弥は庭の中で生活しなかった。</p> <p>芸術家 = 美の追究</p>

「宇宙」

- ・その中に人が身を置くところのもの。
- ・その中に入ることのできる庭。(修学院)
- ・それ自身境のある世界。(竜安寺)
- ・自然から明らかに区別される。(竜安寺)
- ・額縁の中に限られたものではない。(×竜安寺)
- ・一切を包む庭。(新しい概念)
- ・単に見られるものではない。(×竜安寺)
- ・その中で動き、生き、考えることのできる庭。(修学院)
- ・精神にとっての対象ではない。(×竜安寺)
- ・唯一の宇宙である庭。(新しい概念)

第三の庭